

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターポッポ		
○保護者評価実施期間	2026年3月1日		2026年3月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2026年3月1日		2026年3月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○訪問先施設評価実施期間	2026年3月1日		2026年3月20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月21日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・対象児をよく知る支援員が訪問支援をおこなうこと。	・小集団での療育の様子と保育所等訪問支援での様子両方を総合的に見て、対象児の訪問支援に活かすこと。 ・対象児を十分に理解すること。また支援員を信頼してもらえるように努めること。 ・電話や面談、メールでのやりとりなど、保護者とのコミュニケーションを十分にとること。	・時期や時間配分、曜日の調整などを工夫し、臨機応変に対象児に合わせて支援できる仕組み作りをすすめること。
2	・地域の各園とも信頼関係があり、経験年数が10年以上ある支援員が訪問支援をおこなうこと。	・保育園や幼稚園、小学校など訪問先の人的、物的環境や大切にされている思いなどを知るように努めること。 ・経験を活かし、対象児の発達段階や集団での困りのポイントを支援員が見極めること。 ・訪問先施設の職員やポッポの心理士・言語聴覚士がアセスメントした内容を共有し、訪問支援にあたること。	・多職種との連携や協働をすすめること。 ・地域の各園との関係作りを引き続き、続けていくこと。
3	・不登園、不登校児への支援を大切にしていること。	・はぐくみや発達相談所など、対象児が過ごす地域の関係機関と連携を取ること。 ・こどもの状況を保護者に伝え、こどもの発達段階や課題について共有すること。そして、その後の心地よい親子関係に繋がることを意識すること。 ・対象児と家族を支える支援先(応援者)を増やせるように努めること。スムーズな就学先への移行を大切にすること。	・地域の保育園や幼稚園、就学先の状況を知ること。 ・不登園、不登校でも個々に違う子ども達の状況を知ること。 ・地域の各関係機関、小学校等との関係作り。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保育所等訪問支援専属の支援員ではないこと。	・保育所等訪問支援専属の支援員として配置をしていないため、様々な子ども達のニーズに合わせて日程を調整して訪問することが難しい。	・時間配分や曜日の調整など、臨機応変に対象児に合わせて支援できる仕組み作りをすすめること。
2			
3			